

# 参 考 資 料

## ① 京都の子育て世帯の住まいに対する希望等

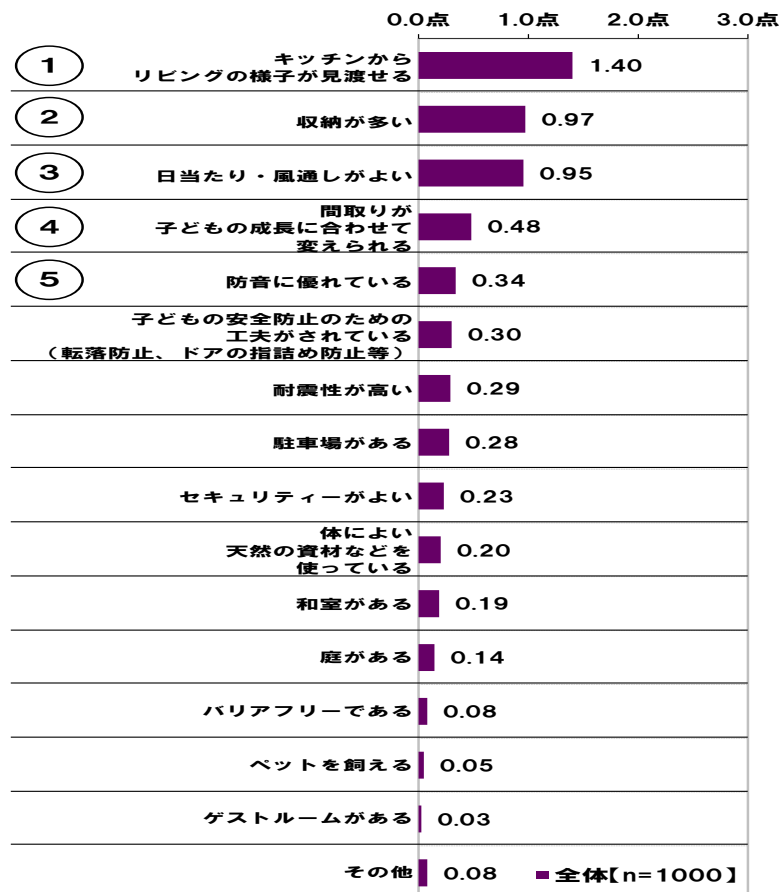
京都府の子育て世帯の住まいに対する希望等について、平成 26 年度に府民を対象に実施した「子育てしやすい住宅・住環境の整備に係る府民ニーズ調査」では、次のような結果が出ています。

(調査方法)

- ・調査対象 京都府民（20～49歳の夫婦で子育てをしている男女で、末子年齢12歳以下）
- ・サンプル数 1,000サンプル（男女各500サンプル）
- ・調査方法 調査会社の保有モニターに対するインターネットリサーチ
- ・調査期間 平成27年2月20日（金）～2月25日（水）

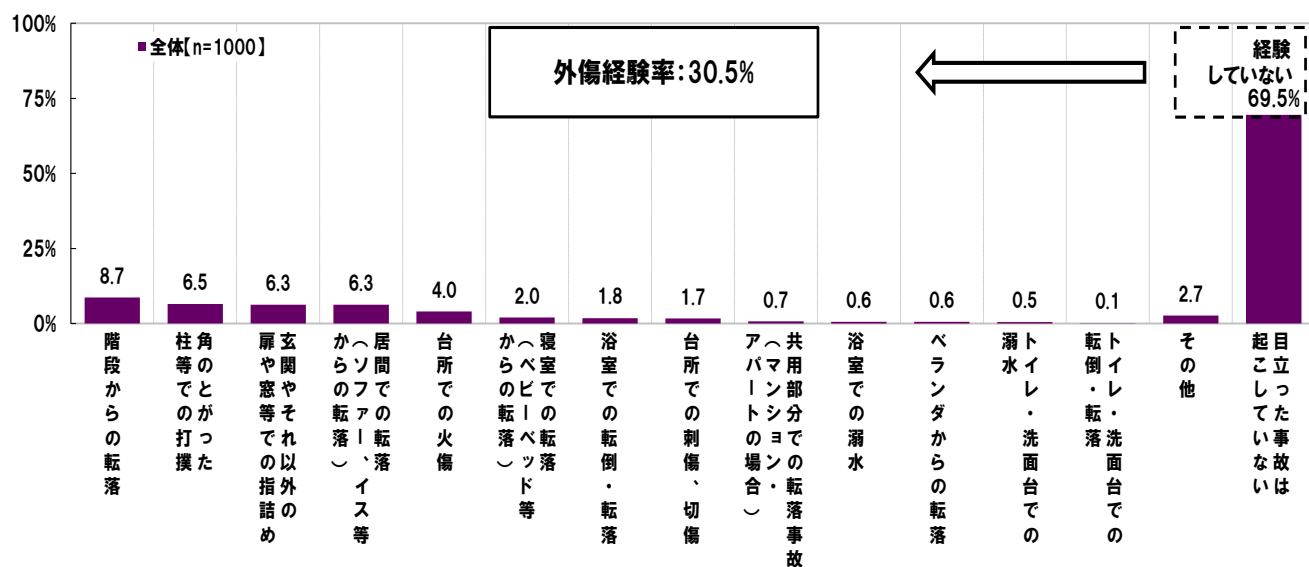
### ● 子育てに考慮した住居の条件

- ・子育てに配慮した住居の条件として、最も点数が高い項目は、「キッチンからリビングの様子が見渡せる」となっており、間取りに対する関心が高いことが分かる。
- ・末子年齢別では、「キッチンからリビングの様子が見渡せる」において、3歳未満が他の層に比べて高い点数となっており、子どもが小さいときほど、常に見守りができる環境を望んでいる。
- ・同居子人数別では、「間取りが子どもの成長に合わせて変えられる」において、子どもの数が多いほど高い点数となっている。



## ● 住戸内における子どもの（病院に行かなければならない程度の）外傷経験

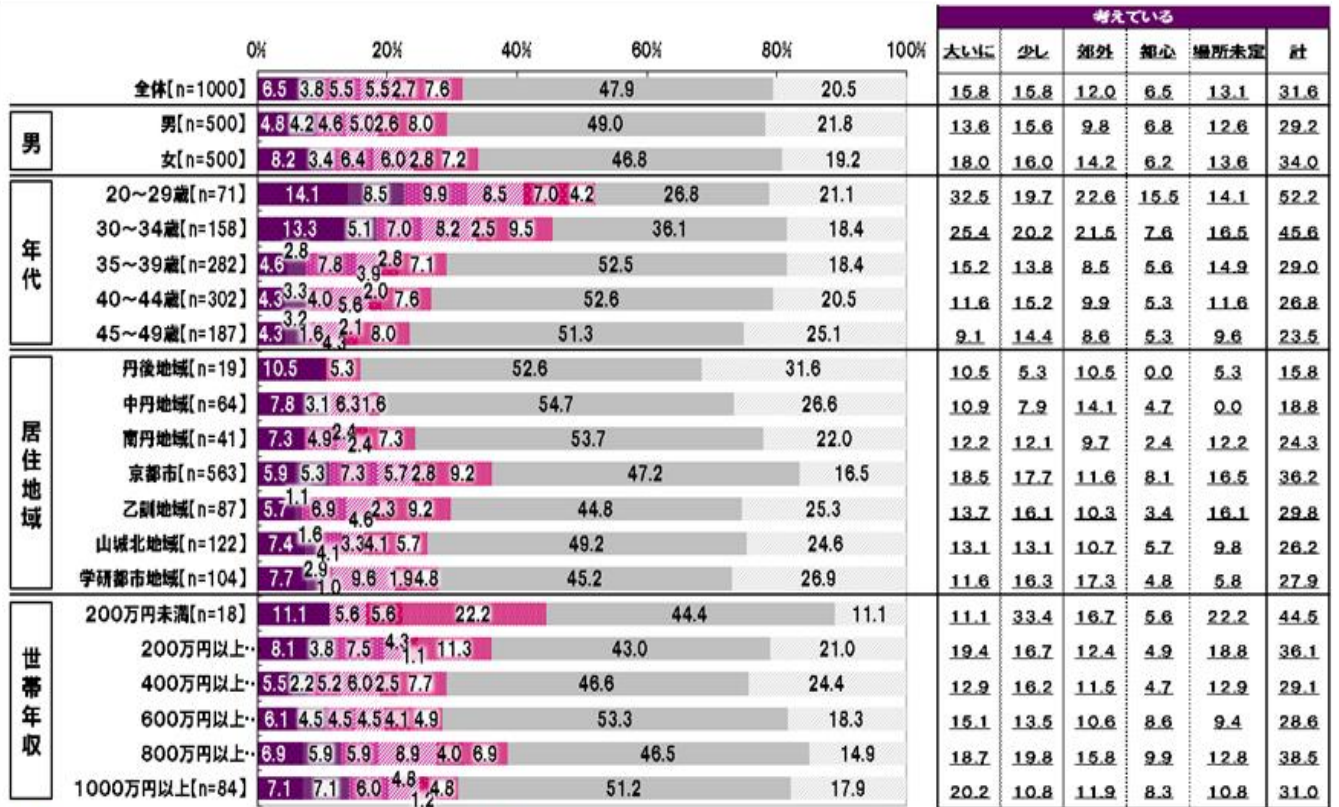
- ・ 回答者の約30%が何らかの事故やけがを経験している。
- ・ 「階段からの転落」、「角のとがった柱等での打撲」、「玄関やそれ以外の扉や窓等での指つめ」、「居間での転落（ソファー、イス等からの転落）」、「台所での火傷」が上位である。
- ・ 住宅内や周辺環境には、ふとした拍子にけがの原因になる要素が少なくない。意識してそのリスクを減らしていくことが必要といえる。



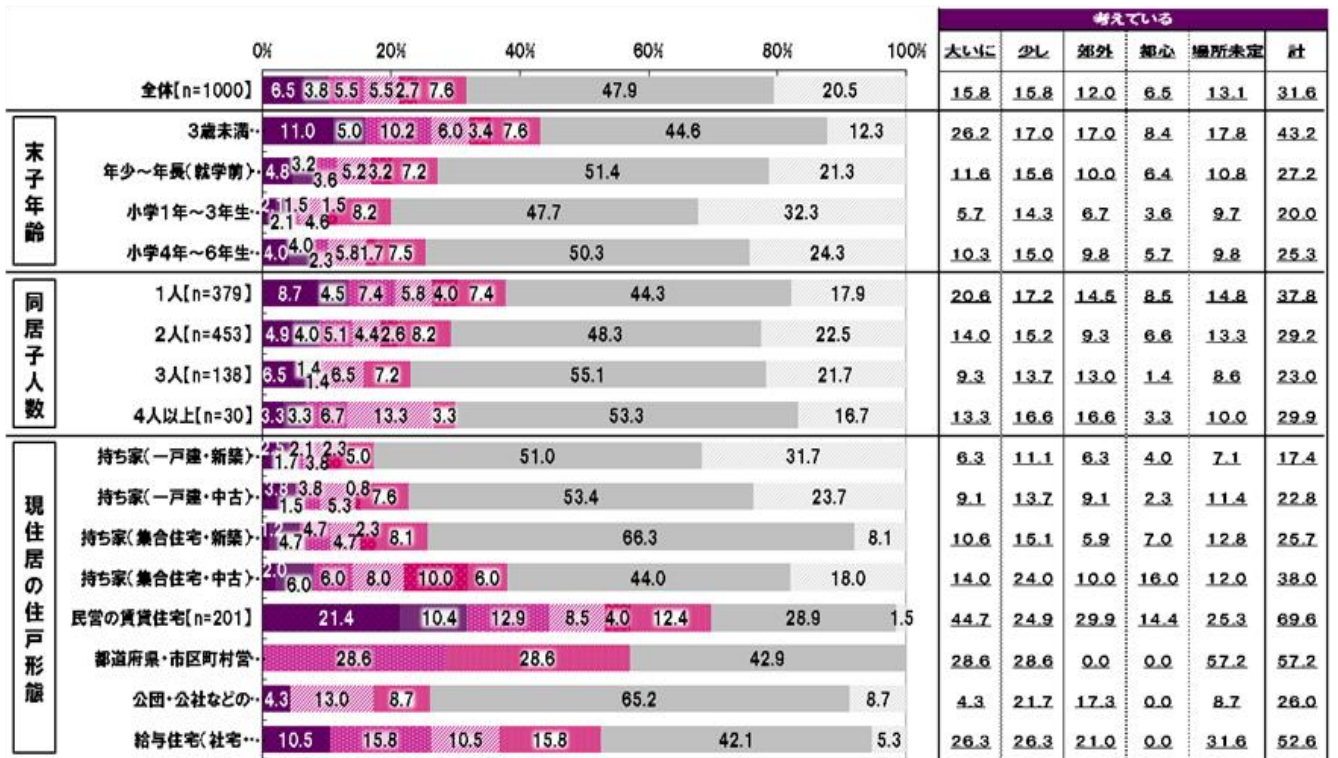
## ● 現時点での住み替え意向（次ページ表参照）

- ・ 現時点の住み替え意向として、「考えている（計）」は31.6%となっており、住み替え意向の程度について、「大いに考えている（計）」「少し考えている（計）」はそれぞれ15.8%となっている。
- ・ 郊外と都心のどちらかを考えているかについて、「郊外」は12.0%、「都心」は6.5%、「場所未定」は13.1%となり、「郊外」の回答がやや高くなっているのは、自然環境等、子育て環境を考慮したものではないかと考えられる。
- ・ 年代別では、「考えている（計）」において、20～34歳の若手層が他の年代に比べて高い割合となっており（20～29歳52.2%、30～34歳45.6%）、若い世帯の流動性の可能性を示している。
- ・ 居住地域別では、「考えている（計）」において、京都市が他の地域に比べて高い割合となっており（京都市32.6%）、都市部の流動性の可能性の高さを示している。
- ・ 末子年齢別では、「考えている（計）」において、3歳未満が他の年齢に比べて高い割合となっている。（3歳未満43.2%）

### 現時点の住み替え意向



- 大いに考えている(郊外)
- 大いに考えている(都心)
- 大いに考えている(郊外か都心かは決まっていない)
- 少し考えている(郊外)
- 少し考えている(都心)
- 少し考えている(郊外か都心かは決まっていない)



- 大いに考えている(郊外)
- 大いに考えている(都心)
- 大いに考えている(郊外か都心かは決まっていない)
- 少し考えている(郊外)
- 少し考えている(都心)
- 少し考えている(郊外か都心かは決まっていない)

## ● 住み替えを希望する住戸形態

- ・住み替え意向のある者に聴取したデータによると、最も多い回答は、「持ち家（一戸建・新築）」で過半数を占めた。（56.3%）
- ・「持ち家（一戸建・中古）」、「持ち家（集合住宅・新築）」、「持ち家（集合住宅・中古）」（順に18.0%、9.5%、3.5%）を合わせた「持ち家（計）」は87.3%となった。

